

香川

※2023年春実施の全国公立高校入試情報は、2022年12月9日現在によるものです。

1. 日程

[自己推薦選抜]

○検査・面接等

2/1

○合格者発表

2/8

[一般選抜]

●学力検査

3/7

○適性検査・面接

3/8

○合格者発表

3/16

※追検査 3/11・12

2. 学力検査

[一般選抜]

国語：50分・50点

数学：50分・50点

英語：50分・50点

理科：50分・50点

社会：50分・50点

<250点満点>

○英語聞き取りあり

○国語課題作文あり（例年）

※高松工芸のデザイン科・工芸科・美術科・インテリア科，普通寺第一のデザイン科…美術科等適性検査あり

音楽科…音楽科適性検査あり

（適性検査は第2志望者を含む。）

3. 調査書

[評定の記載方法]

○1年…5段階（絶対評価）

○2年…5段階（絶対評価）

○3年…5段階（絶対評価）

[調査書点の算出方法]

3年・実技重視（3年の5教科を2倍、3年の実技4教科を4倍する）

1年：9教科×5段階＝45点

2年：9教科×5段階＝45点

3年：5教科×5段階×2倍＝50点

3年：4教科×5段階×4倍＝80点

<220点満点>

4. 合否判定

[調査書と学力検査の比重]

同等

[判定方法]

段階相関方式（各5段階）

学力検査点と調査書点をそれぞれ「5段階法による人数配分表」により5段階に分け、相関表を作成。これと調査書の学習の記録以外の記載事項及び面接等を考慮し、総合的に選抜する。

※第2志望者がある場合は、定員を分割して判定。

・大学科内に小学科が1つ…定員の90%を第1志望者から選ぶ。残りの10%は第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

・大学科内に小学科が2つ以上…定員の50%を第1志望者から選び、残りの40%は、その50%に入らなかった第1志望者とその小学科が属する大学科からの第2志望者を同等に扱って選ぶ。残りの10%は、他の大学科(他の課程を含む)からの第2志望者も加え、第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

※全国募集の選抜では、はじめから第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

小豆島中央の特進コースと普通コースは、それぞれ一つの小学科とみなす。また、くくり募集をする場合は、それらを一つの小学科とみなす。

5. 推薦入学等

■自己推薦選抜

小豆島中央・高松・高松桜井・丸亀を除く高校・学科で実施。

自己PR書を提出。

音楽科は、音楽科適性検査選択課題選択届出書も提出。帰国生徒等は、海外在住状況説明書が必要。

[検査内容]

面接・《作文、適性検査、総合問題のどれか1つ以上》

※総合問題は、国・数・英の3教科・45分。

※適性検査は生活デザイン科やデザイン科、工芸科、美術科の芸術系学科と音楽科で実

施。

※面接では、自己アピールや口頭試問を行う学校あり。

[定員に対する比率]

○普通科，理数科，文理科…5～20%以内

○音楽科，美術科…50%以内

○その他の学科…20～50%以内

6. 備考

一般選抜で、全員に面接を実施。

同一校内に2つ以上の小学科がある場合(くくり募集をする場合はそれらを一つの小学科とみなし、小豆島中央の特進・普通科コースはそれぞれ一つの小学科とみなす)は、第2志望を出願できる。

※音楽科では音楽科適性検査選択課題選択届出書を提出。

※帰国生徒等は、海外在住状況説明書が必要。

※ほとんどの高校・学科で、求める生徒像を公表して全国から生徒募集をする。合格者数の上限は、募集定員枠外として、自己推薦・一般選抜を合わせて2～16人。

※追検査等

やむを得ない理由で学力検査等を欠席した者のうち、その理由が正当と認められた者に対して追検査(追学力検査，追適性検査，追面接のすべてまたはいずれか)を実施する。ただし、追学力検査は、5教科すべての学力検査を欠席した者について行う。

[通学区域]

小豆島中央を除いて、普通科と理数科，高松第一の普通科には、定められた通学区域がある。